

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
疾患特異的 iPS 細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム
研究開発課題評価（令和 5 年度実施）
事後評価結果

研究開発課題名	次世代型マトリックスによる高効率骨格筋幹細胞分化誘導法の開発
代表機関名	国立大学法人大阪大学
研究開発代表者名	関口清俊

1. 総合評価
やや良い

【評価コメント】

新たに開発した分化誘導法の多施設バリデーションが順調に実施されなかったものの、技術開発に関する当初目標をほぼ達成した。具体的には、骨格筋幹細胞の分化誘導に有用な次世代型マトリックス P-421E8 を安定高発現する CHO 細胞株を樹立し、その安定供給体制を確立した。5 種の筋疾患特異的 iPS 細胞を用いた検証により、マトリゲルに比較して分化効率のバラツキが少なく成功率が向上するプロトコルを確立した点は評価できる。研究期間内での論文発表は無かったが、今後、研究論文の受理が期待される。成果の普遍化という点で他施設での再現性が大きなポイントであると考えられる。本研究開発課題終了後に取得する多施設バリデーションのデータを提示し、新たに開発した分化誘導法の頑健性を示すことで、その方法の一般化が望まれる。